

平成30年度倉敷市生涯学習推進協議会 会議録

(開催日時) 平成31年1月28日(月) 10:00~12:00

(開催場所) 倉敷市役所 10階大会議室

(議題) 第二次倉敷市生涯学習推進基本計画について

(1) 生涯学習施策の体系図について

(2) 達成目標に対する進捗状況について

(3) 各基本施策の取組み状況について

(出席者) 委員13人, 事務局17人

(傍聴者) なし

(報道) なし

(会議内容) 以下のとおり

1 開会

2 あいさつ

- 倉敷市教育委員会教育長によるあいさつ -

3 委員紹介

- 委員紹介 -

4 会長・副会長の選出

- 会長に安達委員、副会長に渡辺委員を選出 -

5 報告

(1) 西日本豪雨による被災及び復興の状況について(生涯学習施設)

- 事務局からの説明 -

西日本豪雨で被災した真備地区の生涯学習施設の被災及び復旧状況を報告

- 当日質問 -

(委員) 修繕とあるが、現状復帰の形になるのか、それとも修繕を含めた改善も考えているのか。

(事務局) 現状復帰に向けての復旧である。微細なところは変わるかもしれないが、基本は元あったところに直すというものである。

(委員) 図書館の水損した蔵書について。廃棄したものは元に戻るのか、少しずつ復旧するのか。

(事務局) まだ決まっていないのが現状である。他市の図書館から蔵書寄贈の提案を受けているが、膨大な数であるので、どうしていくかは検討中である。

(委員) 真備町の体育館も使えない状況である。中央体育館は現在改修中で、利用者間

で各部で取り合いになっている。真備町の体育館は、何時頃から使用できるか。
(スポーツ振興課) 真備総合公園体育館は、来年度に向けて復旧工事を行う予定として
いる。発災時物資保管庫に使用された関係で床が傷んだ。床の状態を見ながら工事
を行い、今年夏までの利用再開につなげたい。

(2) 成年年齢の引き下げに伴う成人式に在り方について

- 事務局からの説明 -

平成30年6月の民法の一部改正され、平成34年4月1日より成年年齢が20歳
から18歳に引き下げ、男女の婚姻年齢が18歳に統一と大きく2点の変更があった。

生涯学習課は成人式を所管しており、現在20歳で実施している成人式をどうする
か、市民から広く御意見を求めており、生涯学習課が所管している社会教育委員会議
でも議論を始めたところである。今後の成人式の在り方については、今回の民法改正
の意義、成人式の意味を確認しつつ、社会教育委員会議で検討を重ねることとしてい
る。今年2月にもう1回社会教育委員会議を開催するので、議論をお願いすることと
なる。他市の事例も参考にしていけるが、引き続き20歳での成人式の開催を決めたと
ころもある。来年度は、今回の民法改正で直接影響を受ける

ことになる年代 (高1・中3・中2) にアンケートを実施し、意向調査を行う予定
である。それらを勘案しつつ、成人式の対象年齢・実施の時期・開催場所等の検討を
始めていく予定である。結論は社会教育会議で決定するが、せっかくの機会なので、
広く意見を伺いたい。

- 当日質問 -

(委員) 成人を祝う趣旨からすれば、18歳で実施すべきと考える。民法改正の影響
を受ける年代へのアンケートを持って年齢を決めるのも良いが、平成34年に対象
となる新成人と、仮に10年後の新成人とは置かれた立場も考えが異なるだろう。
また、法律で成人の日が1月でいくのかも注視したい。

(事務局) 高校に出向いて説明してからアンケートを実施する予定である。なぜなら、
新成人には、巨大な同窓会、イベントとしての成人式としてのイメージを持っている
人もいるかもしれないが、税金を使って実施していること、成人となる自覚を持
ってもらいたいこと、ルールが変わることを認識してもらいたいためである。
10年経つと意見が変わる可能性も認識したうえで、社会教育会議にもそれを踏ま
えて諮りたい。

(委員) 18歳だと1月に大学入試がある。開催時期の問題も出てくるのではないか。

(事務局) 高校3年生でこの時期に実施だと、新成人の集まりは半減するだろう。18
歳開催とした場合、時期をずらすのも方法だろうと思われる。

(委員) 成人式で地域団体としてふるまいをしているが、喜んで食べてくれている。
今の会場は屋外なので、天候不順となると晴れ着が汚れないか心配だ。屋内開催も
検討してほしい。また、高校生にアンケートを取る場合、その保護者に対するアン
ケートも検討いただきたい。

(事務局) 保護者も含めてアンケートを実施予定である。

(委員) 中学校では中学2年生で立志式を実施しているが、3年生となると学校は実施を反対するだろう。同じように成人式を各高校に依頼すると、受験・就職があるなかで、学校から反対を受ける可能性がある。18歳実施とするなら、卒業のあとに「成人を祝う会」という形で実施するのはどうだろうか。

(委員) 成人式の会場をチボリ公園からマスカットスタジアムに変更した後に、社会教育委員会議の場で、会場の見直しや分散開催を検討したことがあるが、交通の便や警察の理解、高校の友人関係が中学校区を越えていることなどを考慮し、現在のままとしている経緯がある。

また、高校開催となると高校に行っていない子を取りこぼすことになる。

(司会) 様々な意見を取り入れて、事務局は実現の可能性を検討いただきたい。

6 協議

(1) 第二次倉敷市生涯学習推進基本計画生涯学習施策の体系図について

- 事務局からの説明 -

第二次倉敷市生涯学習推進基本計画の基本目標と基本的な方向性について説明
前計画からの流れと本計画の基本施策を説明

- 事前質問・当日質問 -

なし

(2) 第二次倉敷市生涯学習推進基本計画達成目標に対する進捗状況について

- 事務局からの説明 -

基本施策の取組み状況について説明

「一人一人が生涯を通して行う学習の支援」の基本施策について説明

事前質問については、別紙「事前質問への回答」を基に説明

- 当日質問 -

(委員) ライフパーク倉敷図書室の開所時間延長について、中央・児島図書館の時間延長の際、船穂・真備図書館の時間延長がされなかったことを指摘したが、その際も検討するとの回答であった。今も検討するとある。執行部としての姿勢を持ってほしい。午前にしか行けない人は、その他の時間には行けない。行政サービスとして、図書館の開館時間にばらつきがあるのはどうか。

(事務局) 人の配置・予算の関係もある。引き続き、検討させていただきたい。

(委員) 検討しないといけない時期なのに、今後利用者の声を聴くというのは、執行部姿勢としていかがなものか。

(事務局) 今まで何もやっていなくて、今後聞くということではない。重要な課題であることを認識しているので、引き続き見守っていただきたい。

(委員) 提示したら、美術館等の入場料が無料となるパスポートがある。以前美術館でボランティアをした時、長い休みの平日に中学生が来たが、平日に使えなかった

ため帰る子がいた。平日でも対応する方法はないか。

(事務局) パスポートは2種類ある。流域パスポートは、高梁川流域7市3町の市町の施設を対象としているが、市外の人でも利用することから土日のみの利用としている。

また、倉敷市独自に「いきいきパスポート」を発行しており、これは市の施設のほかに民間5施設の入場料を無料としている。利用日の拡大となると、予算の話が絡んでくるため検討させていただきたい。ただ、市立美術館・科学センターは、パスポートを提示すると平日でも無料となる対応としている。

(委員) 公民館がバリアフリー化が成されていないため使いづらいとの話がある。5年・10年のうちに、人口が一番多い年代の方が生涯学習施設に行こうとしても、バリアフリー化が成されていないと、自宅にこもりがちになる、介護が必要となるという悪い循環に陥ることになると思う。計画でも改修が必要とあるが、順番が回ってこないようだ。予算がかかると思うが、できるだけバリアフリー化をすすめてほしい。

(事務局) バリアフリー化は最もな話であり、今後施設建設・改修を進めていく時は検討したい。一方で、平成30年12月に中央教育審議会が「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策」について答申を出した。日本全体で人口が減少していくなかで、施設の複合化等を含め、人口減少を見越した検討をしていきたい。

(委員) 地域で小地域ケア会議で地域の課題等を協議しているが、メンバーが高齢化している。また、研修しても、その研修の成果が地域にフィードバックされないと感じる。地域で人を育てていかないと感じており、行政には地元で活用できる研修をやっていただきたい。

(委員) 学校の体育施設開放について。使用料の還付手続き等を学校職員が行っており、市へ改善を求めているところである。利用者が学校へ来るのは勤務時間外であることを強調しておきたい。教員の働き方の観点から考えてもらいたい。

(事務局) 学校に負担をかけている。現状では、事前質問にあるとおりの回答となるが、例えば地域連携の中で学校の負担軽減できないかなど検討したい。課題があると強く認識したので、担当課とも話を詰めていきたい。

- 事務局からの説明 -

基本施策の取組み状況について説明

「生涯学習による地域活性化の推進」の基本施策について説明

「地域連携による学校支援事業」について説明

事前質問については、別紙「事前質問への回答」を基に説明

(委員) 総論として意見を申し上げたい。大きく2つある。公共施設の位置の問題・地域住民が地域で活動できる場所の確保の問題がある。行政では、生涯学習活動は生涯学習施設と縦割りになっており、地域住民が自由に地域活動するのに場所の確保が将来的に困難になってくる。そろそろ行政もセクションの枠を超えて、小学校区で地域住民が自由に地域活動できる場所の整備を必要では。

もう一つは、駐車場の問題である。車社会となり、昨今では学校へ支援する人が増えると、子ども達が活動をする場が減るといこという課題がある。大きく変革をしながら地域と連携して、地域の活性化を図っていただきたい。

(事務局) 難しい課題である。行政はこれまで縦割りでやってきたのは事実である。補助金の問題もあり、教育と福祉の一体化施設を作ろうとなると補助金の使い方で問題となるが、乗り越えないといけない問題である。先程も言ったが人口は減っていく。今までの施設のあり方ではとてももたない。車の問題も避けて通れないのも認識している。人口減少を見据えた施設づくり、縦割りではない施設複合化。建設場所の問題・駐車場問題も含めた施設複合化を考えていけないといけないと考えている。

(司会) 問題意識を共有して、しかるべきところで検討していただきたい。

(3) 市民アンケートの結果について

- 事務局からの説明 -

回収率は34.6%で例年どおりであったが、回答者の年齢層に大きく隔たりが生じた。特に20代、30代の回答がほとんどない。人口統計に基づいて同じ割合で年代を抽出したが、若い世代にほとんど回答していただけなかった。

また、質問で「生涯学習活動をするに当たっての問題点」を尋ねたが、65歳以上と以下で明確に意識の差が生じた。若い方は「時間がない」「お金がかかる」と答えた方も多い。逆に、65歳以上方は「問題ない」と回答している。

アンケートを実施し、アンケートのやり方を変える必要を感じた。20・30代の方はスマホを使わないと回答が得られない。スマホを使うにしろ、どのようなやり方がよいか考えていきたい。

また、今後様々な施策を行ううえで、65歳以上・以下で変えていく必要があるかもしれない。

- 当日質問 -

(委員) 大学受験もネットで行う時代だ。アンケートの取り方を考えたほうがいい。「何をどう学習したらよいかわからない」回答している若い人が多い。広報がコーポに配られていないこともあり、行政からの情報提供が届かない。インターネットからもっと発信し、見てもらえるよう検討いただきたい。

(委員) 学習の題材は多いと感じる。ただ特に男性は退職すると引きこもることが多いと感じる。講座を実施している情報が伝わりにくい。地域につなぎ役の人がいて、情報提供するような仕組みがあればいいと思っている。

(委員) 良くも悪くもネット社会なので、行政は市民の思考・動向に敏感に反応し、合わせてのが役目だと思う。郵送して手で書いて返信をしろと言っても、若い人は文字を書くことにも抵抗感がある現実を理解してもらいたい。また、意向調査するとき行政は公正公平というのが出るが、考え方を変える必要があると思う。

また、行政は延べ参加者という考え方が大きすぎるではないか。同じ人が繰り返し参加

すると延べ人数は増えるが、実利用人数はどうか考える必要があるのではないか。今の市民がどのように情報を得て、どのような情報提供したら参加、若しくは関心を持ってもらえるか。もし自分の家族が必要となった時に思い出してもらえるかを考えた仕組みづくりをしないといけない。

アンケートの取り方や、実利用者の発想を取り入れてやっていただきたい。

(司会) 貴重な、又有意義な多くの意見をいただいた。事務局のほうでしっかりと共有いただき、改善を図った点や今回問題があった点については、遅くとも次回の協議会の説明の中でその取り組みを報告いただきたい。

6 あいさつ

- 生涯学習部部長によるあいさつ -

7 閉会

以上を平成31年1月28日(月)開催の平成30年度倉敷市生涯学習推進協議会の会議録とすることに同意し、ここに署名します。

平成 年 月 日

会 長
